

北見市における景気動向調査報告書

< 第 II 四半期 >

北見商工会議所

I. 調査要領

1. 調査時点及び調査対象期間

(1) 調査時点 平成18年10月20日

(2) 調査対象期間 平成18年7月～9月期実績および平成18年10月～12月期見通しについて調査した。

2. 調査対象

北見市に所在する企業を対象に、製造業、建設業、卸売業、小売業、サービス業の5業種150社を往復ハガキにより調査した。

3. 回収状況

業種	企業数	対象企業数	回答企業数	回答率
製造業		30社	22社	73.3%
建設業		30社	24社	80.0%
卸売業		30社	22社	73.3%
小売業		35社	20社	57.1%
サービス業		25社	17社	68.0%
合計		150社	105社	70.0%

注) 本調査結果の中で、D・I値とある記号は、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)で好転企業割合から悪化企業割合を差し引いた値を示す

II . 概 況

《 全 体 の 動 き 》

平成18年度第Ⅱ四半期<7月～9月>の北見市における業況は、前年比で「好転企業」14.3、「悪化企業」49.5、「好転」から「悪化」を差し引いたD・I値は△35.2となっており、前年同期比(△44.7)との比較では9.5ポイントと好転、「好転企業」が2.6ポイント増加、「不変企業」が4.3ポイント増加、「悪化企業」が6.9ポイント減少と、数値はまだ高いものの明るい兆しが見えつつある経済環境を示しています。このD・I値を前期調査<18年度第Ⅰ四半期>と比較してみると前回△32.1→今回△35.2と3.1ポイント悪化、「好転企業」が3.0ポイント減少、「不変企業」が2.9ポイント増加、「悪化企業」が0.1ポイント増加と、前回の好調を維持した傾向を示しています。

今回の業況を業種別で見ると製造業D・I値△27.3、建設業D・I値△29.2、卸売業D・I値△40.8、小売業D・I値△30.0、サービス業D・I値△52.9と全業種マイナスを示しているものの、前年同期調査と比較すると建設業で40.3、小売業で26.1ポイントの大幅な改善が見られ、製造業は3.8、卸売業では6.0ポイント、サービス業は19.6ポイントの悪化傾向を示しており、業種によりバラつきはあるものの全体的には改善傾向を示しています。

また、来期の見通しを全業種で見ると「好転企業」12.4%「悪化企業」39.0%でD・I値△26.6と、前年同期見通し(△41.5)に比べ14.9ポイント好転しており、前期に引き続き明るい兆しが見える来期見通しとなっています。

《 業 種 別 の 動 き 》

1) 製 造 業

生 産 高

前年比で「増加企業」18.2%、「減少企業」40.9%、D・I値△22.7と前年同期に比べ0.8ポイントの改善、前期調査との比較では21.7ポイント大幅に好転しており、2期連続で悪化傾向から回復の状況を示しています。

採 算

前年比で「好転企業」19.0%、「悪化企業」52.4%、D・I値△33.4と前年同期に比べ7.9ポイントの改善、前期調査との比較では同数と、前期に引き続き若干ではありますが回復傾向となっています。

来期見通し

業況D・I値△18.2、生産高D・I値△9.1、資金繰りD・I値△27.2と、前年同期に比べ全てのD・I値が回復傾向を示しており、特に生産高D・I値は26.2と高い数値を示しています。また、前期調査との比較では生産高D・I値は24.1ポイント、業況D・I値は15.1ポイント、資金繰りD・I値は11.7ポイントとすべてのD・I値が高い回復傾向を示しており、明るい兆しが見える来期見通しとなっています。

2) 建設業

完成工事高

前年比で「増加企業」25.0%、「減少企業」54.2%、D・I値△29.2と前年同期に比べ34.5ポイントの大幅な好転傾向、前期調査との比較でも5.7ポイントの好転傾向を示しており、前回に引き続き回復状況となっています。

採算

前年比で「好転企業」8.3%、「悪化企業」62.5% D・I値△54.2と前年同期に比べて24.1ポイントの大幅な好転傾向、前期調査との比較でも6.8ポイントの好転傾向を示しており回復傾向にありますが数値は高く、依然として厳しい状況となっています。

来期見通し

業況D・I値△49.9、完成工事高D・I値△41.7、資金繰りD・I値△37.4と前年同期と比べすべて好転傾向を示し、特に業況D・I値は19.7ポイントと高い数値を示しています。前期調査との比較でも同様ですべて好転傾向であり、特に完成工事高D・I値は23.5ポイントとなっており、数値自体は高いものの少し明るい兆しが見えつつある来期見通しとなっています。

3) 卸売業

売上高

前年比で「増加企業」27.3%、「減少企業」40.9%、D・I値△13.6と前年同期と比べ3.8ポイントの改善傾向を示しており、また、前期調査との比較でも5.4ポイントの改善傾向を示しており、前期一部落ち込みが見えたものの再び回復の傾向となっています。

採算

前年比で「好転企業」13.6%、「悪化企業」36.4%、D・I値△22.8と前年同期に比べ5.4ポイントの悪化傾向を示しています。また、前期調査との比較では5.8ポイントの改善傾向を示しており、前期の落ち込みから回復傾向にあるが例年より落ち込み、一部明るい兆しが見えつつあるものの厳しさのある状況となっています。

来期見通し

業況D・I値△18.2、売上高D・I値△4.6、資金繰りD・I値△4.5と前年同期に比べすべてのD・I値がプラスで、特に売上高D・I値が30.1ポイントと大幅なプラスの数値を示しています。前期調査との比較では資金繰りD・I値が若干マイナスだが他はプラスであり、一部悪化傾向はあるものの明るさの見える来期見通しとなっています。

4) 小売業

売上高

前年比で「増加企業」15.0%「減少企業」55.0%、D・I値△40.0と前年同期に比べ2.5ポイントと悪化傾向を示しています。しかし、前期調査との比較は17.0ポイ

ントの大幅な悪化傾向を示しており、厳しい状況となっています。

採 算 前年比で「好転企業」10.6%「悪化企業」52.6%、D・I値△42.0と前年同期に比べ20.4ポイントの大幅な好転、前期調査との比較では0.3ポイントの悪化傾向を示しており、回復傾向にあるものの数値は高く予断を許さない経済環境となっています。

来期見通し 業況D・I値△10.0、売上高D・I値△10.0、資金繰りD・I値△10.0と前年同期と比べてすべてのD・I値が改善傾向を示しており、特に売上高D・I値は27.4と大幅な回復傾向を示しています。前期調査との比較でもすべてのD・I値は28.4と大幅な改善傾向で高い数値を示しており、業況・採算に厳しさはあるものの明るい来期見通しとなっています。

5) サービス業

売 上 高 前年比で「増加企業」11.8%、「減少企業」64.7%、D・I値△52.9と前年同期に比べ19.6ポイントと大幅な悪化傾向、前期調査との比較でも19.6ポイントの大幅な悪化傾向を示しており、厳しい経済環境となっています。

採 算 前年比で「好転企業」5.9%、「悪化企業」76.5%、D・I値△70.6と前年同期に比べ24.0ポイントの大幅な悪化傾向、前期調査との比較でも37.2ポイントと大幅な悪化を示しており、数値も高く大変厳しい経済環境となっています。

来期見通し 業況D・I値△35.4、売上高D・I値△47.0、資金繰りD・I値△35.3と前年同期に比べすべてが改善傾向、特に資金繰りD・I値は18.0と大幅な改善傾向を示しています。前期調査との比較でも売上高・資金繰りD・I値が改善傾向を示しており、数値はまだ高いものの明るい兆しが見える来期見通しとなっています。

業 種 別 経 営 上 の 問 題 点

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
製 造 業	諸 経 費 増	得 意 先 減 少	同業者間の競合	人 件 費 増	人 材 不 足
建 設 業	同業者間の競合	諸 経 費 増	得 意 先 減 少	人 材 不 足	人 件 費 増
卸 売 業	得 意 先 減 少	同業者間の競合	諸 経 費 増	人 材 不 足	人 件 費 増
小 売 業	得 意 先 減 少	同業者間の競合	諸 経 費 増	人 材 不 足	人 件 費 増
サービス業	同業者間の競合	諸 経 費 増	得 意 先 減 少	人 件 費 増	人 材 不 足
合 計	同業者間の競合	得 意 先 減 少	諸 経 費 増	人 件 費 増	人 材 不 足

※ 問題点は、各業種とも3つ選択。